答辞

５９２日。これは、私たちが出会ってから今日まで、共に過ごしてきた時間です。何気なく過ごしてきたその日々には、ありふれた、けれども、かけがえのない思い出がたくさん詰まっています。

肌を刺すような冷たい外気がいつの間にか和らぎ、吹く風にも春のおとずれを感じるようになりました。私たちは、多くの人に支えられ、この日を迎えられました。全ての人に心から感謝しています。

私たちが出会った入学式。

一人一人が新たな心でこの体育館に入りました。中学校という初めての環境。先生や仲間との出会い。

全てが新鮮で、希望と不安が入り混じっていました。

そんな中で行ったオリエンテーション。中学校での初めての行事でした。
声をかけ合いながらのハイキング。心を一つにして競い合った校歌斉唱や集団行動。
共に過ごす中で一体感が生まれました。

先輩としての一歩を踏み出した二年生。

様々なことを学び、「働く」ということの厳しさと喜びを実感した職場体験。
戦争は、私達に何を残したのか…。平和とは何なのか…。現地でしか知ることのできない、戦争の姿に心をしめつけられた広島平和学習。
こうした経験は、自己を見つめ直し、将来を考えるきっかけとなりました。

しかし、いよいよ最高学年を迎えるにも関わらず、まとまらない学年。

声をかけても聞いてもらえず、そればかりか馬鹿にされて笑われる。それでも、声かけを続けると、友達が離れていってしまう。リーダーとは何なのか。正しいこととは何なのか。

分からなくなり、「もうやめてしまおう」と思いました。やめてみると、とても気が楽になり、友達と過ごす時間も増えました。学年としては、まとまらないけれども、楽しい時間を過ごすことができた私は、役割から目を背けていました。

あるとき、声をかけ始めた子がいました。笑いかけながら声かけをする姿を見て、私は、どんな表情、どんな声だったのだろうと考えました。きっと、怖い顔をして、厳しい声を出していたのでしょう。本当に、未熟なのは、私でした。周りの人を嫌な気分にさせていたのだと気づきました。この経験をとおして、大きな一歩を踏み出せたような気がします。

中学校生活最後をキーワードに、一つにまとまった三年生。

修学旅行。
最高の思い出となるよう、計画を立てていきました。観光地を訪れ、日本の伝統文化にふれ、楽しい三日間は、あっという間に過ぎていきました。

全力を注いだ部活動。
喜び笑い合う日も、悔しくて涙する日もありました。けれど、それを分かち合える仲間がいてくれたから、乗り越えることができました。
そして、そんな仲間と出会い、三年間部活動を続けられたことを誇りに思います。

あつい戦いが繰り広げられた学校祭。

赤ブロック「りゅうじょうこし」
青ブロック「もうこしゅうらい」
緑ブロック「おうじゃらんげき」
それぞれがブロックテーマのもと優勝を目指して練習を重ねました。
空を見上げて練習計画を練る日々。パフォーマンスでは、広い場所での練習ができないため、誰もが、完成形を描けず、「これで大丈夫なのか」と不安や焦りだけが募っていきました。
合唱では、男女の息が合わず、昨日できていたことが今日できない。なかなかまとまらないハーモニー。２００人を超える集団が一つにまとまることの難しさを改めて感じました。
多くの困難を乗り越えて迎えた本番。勝者と敗者がそこにはありましたが、かけ合う言葉は共に暖かく、仲間のありがたさが身にしみました。

在校生のみなさん。
私たちに力を与えてくれてありがとう。
信じてくれてありがとう。
みなさんがいてくれたからこそ、私たちは最高学年としての自覚をもち、頑張ってくることができました。
今、私たちからみなさんへ弥富中学校のバトンをつなぎたいと思います。これからの日々の中には、楽しいことも困難なことも、多くの事が待ち受けているでしょう。しかし、決して諦めないで下さい。一生懸命な姿は、輝いています。その輝きを持ち続けていて下さい。

先生方
私たちを支えてくださり、ありがとうございました。友達のように、笑い合い楽しい時間を過ごし、時に、厳しく指導していただき、成長することができました。これからの日々の中に、

もう、そのような時間がないと思うと、とても寂しいです。今まで過ごしてきた日々を、先生から学んだことを決して忘れません。

ご来賓の皆様

私たちをあたたかく見守っていただき、ありがとうございました。皆様に、今日、こうしてお祝いしていただけることをうれしく思います。

いつもそばにいてくれた家族

私たちのことを第一に考え、一番近くで応援してくれてありがとう。「家」というあたたかな存在は、心を癒やす支えとなってくれました。

冷たくあたって傷つけてしまったこともありました。ごめんなさい。でも、そんな自分に、私自信も悩んでいました。もう子どもじゃないけれど、まだ大人になれないでいる私たちは、家族の支えなしでは生きていくことができませ

ん。
大切で、大好きな家族。これからもよろしくお願いします。

３年生のみんな
まだ、この仲間と一緒に居たい。笑い合っていたい。そんな気持ちがあふれています。けれど、私たちは目の前の扉を開き、前へ進んでいかなくてはなりません。
うれしいことも互いに分かち合ってきた
２２３人の特別な仲間。勇気をもって新しい一歩を踏み出します。

本当に、ありがとう。

平成２８年３月４日
第五十八回　卒業生代表　仲原　菜月